

山都町 SDGs PR 動画を公開しました！



■ 「ゆうきをつくる町」、山都町

SDGsの達成に向けた山都町の取り組みを町内外の方々に広く知ってもらおうと、町はSDGs PR動画『ゆうきをつくる町ー有機農業がつなぐ未来へー』を製作・公開しました。

動画には、山都町ふるさと応援大使の伴都美子さんが出演。町内の有機農業生産者を訪ね、町の有機農業の歴史や取り組みへの想いを聞かれています。

有機農業生産者の1人として最初に出演するのは昭和50年代から有機農業に取り組む飯星幹治さん(野尻)。「山都町は有機農業の環境にはもってこいの場所。一番高台の山都町から川下は全部化学肥料、農薬は流れないという時代が来るといっている」と話します。他にも両親から有機農業を受け継ぎ、新規就農者の研修受け入れもされている田上貴士さん(城平)や町外からの移住者で新規就農者の榎本航さん(男成)、有機農業を通じたまちづくりに取り組む堀豊生さん(御所)が出演されています。

■ 今後の配信(公開)予定

本動画は、町のYouTubeチャンネルで配信されています。また、KAB熊本朝日放送で動画を短くしたCM放送があり、動画制作の様子も情報番組で放送されます。

○YouTube動画は右のコードからアクセスできます。



【公式】山都町山の都創造チャンネルの登録&動画にいいねをお願いします!

動画による観光や移住・定住、福祉・健康など色んな町の魅力や情報を発信していますので、ぜひご利用ください。

○山都町山の都創造チャンネルは右のコードからアクセスできます。



『ゆうきをつくる町ー有機農業がつなぐ未来へー』から

問合せ先 企画政策課 ☎ 72-1214

山都町はSDGs「持続可能な開発目標」に取り組みます！

私のSDGsを紹介します！

ランバーやまと協業組合 × SDGs

我々・ランバーやまと協業組合は、町内で伐採されたヒノキ(桧)をはじめ、県内全土よりヒノキを取り寄せ建築資材を生産している、ヒノキ専門の製材メーカーです。“熊本県SDGs登録事業者(※1)”及び“ブライツ企業(※2)”の認定を受けています。

「伐って、使って、植えて、育てる」森林の循環利用を推進し、国土の環境保全と利活用を同時に実現するべく、事業展開を行っています。

※1 SDGs登録事業者…SDGsに積極的に取り組む企業や団体等を後押しする県の登録制度に登録された事業者のこと。

※2 ブライツ企業…働く人がいきいきと輝き、安心して働き続けられる企業のこと。(熊本県の造語)

■使用燃料の変更で実現したカーボンニュートラル

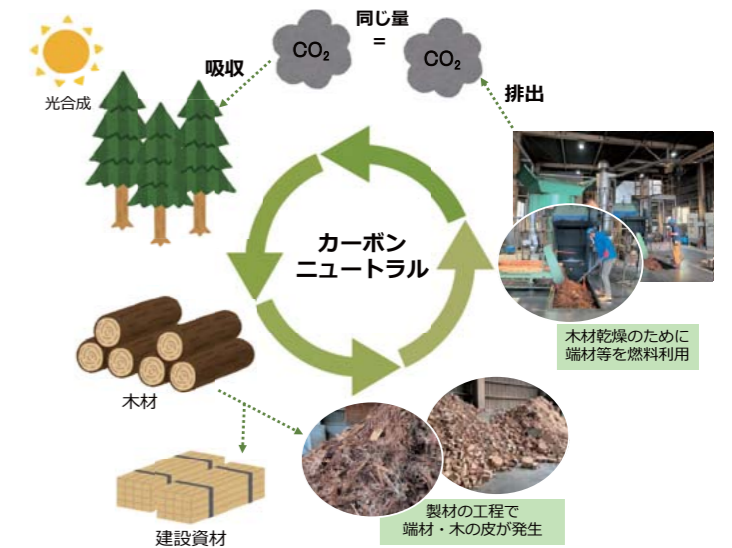
当社では、以前は木材を乾燥させるために重油焚きボイラーを利用し、年間640kl(ドラム缶3,200本分)もの重油を消費し、大量の二酸化炭素(CO₂)を排出していました。一方で、製材の工程で発生する端材や木の皮を適切に処理しなくてはなりません。

そこで、重油の代わりに端材・木の皮を燃料として活用し、平成23年に木くず焚きボイラーを導入しました。現在では重油を9割以上削減し、併せて3,000tのCO₂も削減することができ、経費削減に加えて“カーボンニュートラル(※3)”を実現しています。

今後も地域のパイオニアとして、SDGsを推進します。

※3カーボンニュートラル…何かを生産したり、一連の人為的活動を行った際に排出されるCO₂と、吸収されるCO₂を同じ量にする、という考え方。日本語では“炭素中立”と言う。

SDGs 未来都市山都町



【当社におけるカーボンニュートラルの考え方】

樹木は、生長の過程において光合成により大気中のCO₂を吸収して酸素(O₂)を発生しながら炭素(C)を体内に蓄えます。植物由来である端材・木の皮を燃やしてもCO₂は排出されますが、このCO₂はもともと大気中から樹木が吸収し蓄えていた炭素が大気中に戻るだけなので、大気中のCO₂が増えるものではありません。この考え方が“カーボンニュートラル”になります。

SDGsの取り組みを募集しています。

皆様(住民・地域・団体・事業所・学校等)の取り組みを、町全体の取り組みへと広め、SDGsのゴールへと繋げましょう。

※募集詳細については昨年の広報山都5月号もしくは山都町ホームページにてご確認ください。



問合せ先 企画政策課 ☎ 72-1214